

愛玩動物の適正飼養管理について考える

～人もペットも元気で心豊かに暮らすには～

Japan Pet Care Association

この度、平成21年5月30日(土)、ベルサール九段イベントホール(東京都千代田区)にて開催した、本協会設立30周年記念シンポジウム「愛玩動物の適正飼養管理について考える ～人もペットも元気で心豊かに暮らすには～」の内容を『日本愛玩動物協会設立30周年記念シンポジウム記録集』として刊行いたしました。

機関誌『愛玩動物』でも、1月号から4回にわたり、その内容をご紹介します。



◆本誌(平成22年5月号(213号))掲載

・小動物の適正飼養管理/斉藤 久美子

◆次号の掲載予定

・鳥の適正飼養管理/ケン・マッコート…7月号(214号)

◆過去の掲載

・設立30周年記念シンポジウムの開催にあたって/
公益社団法人日本愛玩動物協会会長 小川 益男

・愛玩動物の適正飼養管理とは/山崎 恵子

・犬の適正飼養管理/水越 美奈…1月号(211号)

・猫の適正飼養管理/ジャクリーヌ・ムネラ…3月号(212号)

小動物の適正飼養管理

斉藤 久美子

獣医師、獣医学博士。1973年東京農工大学獣医学科卒業後、埼玉県浦和市にて勤務医となる。1981年埼玉県浦和市にて斉藤動物病院開業。1999年東京都北区にてさいとうラビットクリニック開業。日本女性獣医師の会会長、社団法人日本獣医学会評議員、動物臨床医学会評議員、本協会理事、愛玩動物飼養管理士認定委員等。主な著書として、「うさぎ学入門」「実践うさぎ学」「エキゾチック動物の看護」等、主な訳書として、「ウサギの内科と外科マニュアル」第1版、同第2版、「ウサギとフェレットの診断・治療ガイド」等多数。

1. はじめに

小動物という言葉はいろいろな意味に使われるのですが、ここでは犬猫以外の小型哺乳類で愛玩動物として飼養されているものとさせていただきます。これにはウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、チンチラ、プレーリードッグ、スナネズミ、そして、モモンガ、シマリス、ハリネズミ、フェネック、そのほかにもリスザルなど、まだまだたくさん動物がありますが、今日は、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの4つの動物の飼養についてお話をいたします。

個別のお話の前に、小動物の飼養全般について、考えておかななくてはならないいくつかの問題があります。小動物は犬や猫よりも手間がかからないで、簡単に飼えるイメージがあるようで、安直に飼いはじめられるようですが、小動物は決して安易に飼える命ではないということを考えていただきたいと思います。犬と猫、小鳥の場合には、正しい飼養法に関する情報が多いです。それに比べ、これらの小動物は幾分遅れをとっているという感じは否めません。獣医学的な知見もまだ不十分です。小動物は、私たち獣医師の世界では敬遠されがちな分野です。これらの動物を飼う場合にはその動物が病気になった時、治療を受けられる動物病院があることを確認してからにした方がよいと思います。どのような動物もひとつひとつの命です。個性もあれば、感情も豊かで、知能をもつ大切な

たったひとつの命です。それぞれの動物が幸せに暮らせるように正しく飼養していただきたいと思います。私たち獣医師の立場からいいますと、これらの動物は飼養の誤りが原因となっている病気があります。つまり、まだまだ正しい飼養の情報が行き渡っていないということだろうと思います。

さて、人はどのような動物でもペットとして飼ってよいわけではありません。愛玩動物として適した動物、ペットとして飼ってよい動物とはどんな動物なのでしょう。人が飼っていないすごく珍しい動物を飼ってみたいという方もおられますが、こういう動物は正しい飼養法が全くわかっていないことが多いですし、病気についてもわかっていません。したがって人が飼わない珍しい動物を飼おうと思ったら、当然相当な覚悟が必要だということを考えてください。愛玩動物として人と暮らすのに適した動物とは何かを、逆に適さない動物をあげて消去法で考えてみたいと思います。

まず、法律で飼養が禁止されている動物。違法な動物を、ただいとおしいからという理由で飼うことは慎まねばなりません。これに関連する法律は一般に鳥獣保護法とか野生鳥獣保護法と呼ばれる「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」で、この法律によって野生鳥獣を捕獲して飼養することが原則禁止されています。そんなことをするわけがないと思われるかもしれませんが、案外身近にも、この法律を犯す場面はあるのです。たとえばムクドリやヒナを



拾ってしまい、育てますと非常によくなります。ヒナが巣立ちの時期になったら早めに外に放してあげればよいのですが、愛着がわいてしまって、ムクちゃんなどという名をつけてそのまま飼ってしまう方がおられます。これは違法なのです。また、怪我をしたり病気になった野生動物を保護する場合があります。いわゆる野生傷病鳥獣です。治療して元気になった頃には愛情がわいて野生に戻せなくなることがあり、カラスとか狸とかをそのまま飼養し続けるというケースがあります。これも違法です。鳥獣保護法の対象は鳥と獣なので、カブトムシなどを捕まえて飼うことは制限されません。しかし野鳥とかネズミや狸などを捕まえて飼うことは禁止されています。法律は最低限のモラルとして守るべきです。

二番目に人にうつる病気。人と動物の共通感染症(ズーノーシス)が全くない動物が飼養に適する動物かもしれませんが、おそらくそんな動物はいません。ズーノーシスはあってもいいのです。それについて私たちに認識があり、それに対する対策がわかっているかという点です。すべての動物についてズーノーシスがわかっていると思うと大間違いで、案外解明されていないものです。犬や猫については、ほぼ正確にわかっていると考えてよいと思います。小動物の中でもメジャーなものはOKですが、レアなものは未解明な部分を非常に多く残しています。プレーリードッグはベストを媒介することから輸入が禁止されました。罪のない動物がズーノーシスのために嫌われるなどというのは理不尽です。人にうつる病気についてよくわかっていない動物は飼ってはいけません。具体的には獣医師に尋ねてください。一般に人間の医師よりも獣医師の方がズーノーシスについて詳しいと思います。

三番目に野性的な攻撃性が著しく残っている動物です。実はこれもズーノーシスの問題と同じ線引きが非常に難しいです。つまり多分に程度問題だということです。たとえば犬や猫でも極端な攻撃性のある個体はいるもので、私たち獣医師は時々その犠牲になることがあります。でも犬や猫は野生で生きることはできません。捨てられても野犬とか地域猫といった人間との接点をもった形でしか生きられませんので、彼らはいくらでも人間が飼ってあげた方がよい動物です。それに犬や猫の攻撃性というのはいくらか折れ合います。一方、小動物はといいますと、捕獲野生個体、つまり野生動物の子どもを捕獲して輸入販売されているようなものは、一般的に非常に野性的です。飼養下で何代にもわたって繁殖されてきた個体であっても攻撃性が著しい場合があります。なぜ攻撃性が著しい動物を飼ってはいけないのかというと、もちろんひとつには飼い主や周囲の人が被害を被っては困るということもありますが、それ以上に重要なのは、そういう動物は自分が飼養されることを喜んではないだろうということです。人間のためというよりも動物の幸せのために野性的な攻撃性の強い動物は飼養すべきではないと思います。

四番目、最後は帰化動物の問題です。帰化動物というのは、人間によって本来の生息地から別の地域へ持ち込まれて野生化し、その土地の気候風土になじみ、繁殖するようになった動物です。きちんとした飼養者である皆様のような方々からすれば、飼っていた動物を捨

てしまったり、うっかり逃がしてしまったりすることはありえないと思われるかもしれませんが、でも、アライグマが国内で野生化した例はよく知られていて、アライグマの飼養は原則禁止されましたし、チョウセンマリスやタイワンリスも日本の森林にすでに定着しています。帰化動物は、従来からそこに暮らしてきた先住動物と食物やすみかを競合したり、先住動物を食糧にすることなどによって、生態系に大きな影響を及ぼし、それは取り返しがつかないほどの影響となる場合もあるのです。人間が好んで飼養した結果として野生動物の生態系を破壊してしまうなどということは罪深いことといわざるをえないと思います。

ここまで愛玩動物として適さない動物の条件を4つご提示しましたが、このほかにも個々の動物はいろいろな背景をもっていて、飼養してはならない条件はほかにもあると思います。いずれにしても「飼いたい動物よりも飼うことができる動物」を飼うべきです。この「飼いたい動物よりも飼うことができる動物」という言葉は二級愛玩動物飼養管理士教本にあった言葉です。かわいい、珍しい、きれいななどというだけの理由で動物を飼ってしまうと、動物たちにかえって不幸を招くということがありますので、愛玩動物飼養管理士(以下、管理士という)の皆様には、この辺をよく勉強して、動物を飼う飼い主さんにアドバイスしていただきたいものだと思います。

2. 適正飼養管理

ウサギ

さて、ここから各動物の飼養管理について触れたいと思います。はじめはウサギです。ウサギは臭わないし鳴かないし、集合住宅などでも飼いやすい都会派ペットといえるかもしれません。ウサギを飼ったことのない方は非常に善良な動物と思っているらしいのですが、意外にしたたかなところがあって、小生意気な動物です。ウサギの品種にはネザーランドドワーフ(写真A)、ホーランドロップ(写真B)、ライオンラビット(写真C)、ミニレックス(写真D)、ジャージーウーリー(写真E)、アメリカンファジーロップ(写真F)などがあり、このほかにも多くの品種があります。長毛種は毛の手入れがとても大



A. ネザーランドドワーフ



B. ホーランドロップ



C. ライオンラビット



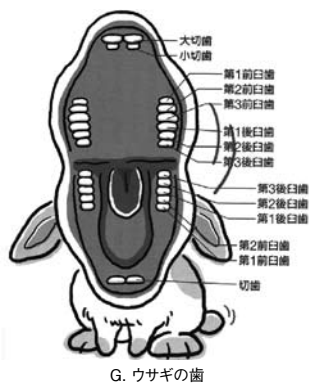
D. ミニレックス



E. ジャージーウーリー



F. アメリカンファジーロップ



G. ウサギの歯



H. ウサギの飼育ケージの1例

変です。ロップというのは垂れ耳のウサギですが、外耳炎になりやすいですし、ロップがなりやすい病気がいくつかある反面、なりにくい病気もあります。ネザーランドのように超小型の品種は臼歯のトラブルなどが起こりやすい傾向があります。

ウサギの歯の話を少しいたします。正面から見ると切歯が見えます。上の歯と下の歯とがほぼ同じ長さで白いのが正常です。ウサギの歯は伸び続ける歯なのですが、切歯を横から見ると鋭いノミのような形になっており、上下の歯が互いにすり合うことで一定の形が保たれます。上の歯は1週間で約1mm、下の歯は約2mmも伸びます。上の切歯の裏側にはペグと呼ばれる小さな歯が1対あり、これを根拠にウサギは重歯目と呼ばれ、げっ歯目から分けられています。ウサギの歯は前歯だけではなく奥歯、つまり臼歯があります。犬歯はなく、これは一般に草食動物の共通した特徴です。ウサギの歯は全部で28本です(写真G)。

ウサギの食事は干し草を主食にしていきたいのです。チモシーの干し草が入手しやすく、また栄養的にも適しています。ウサギに干し草が必要な理由は、まず臼歯の正しい摩耗のためです。次に胃腸の機能維持のためで、胃のトラブル、腸のトラブルはウサギに多いのですが、干し草をたくさん食べているウサギにはその両方ともなりにくい傾向があきらかです。また干し草の多食は肥満の防止にもつながります。干し草は万能薬といってよいでしょう。干し草をたくさん食べるウサギは大きくて乾いた立派な便をします。栄養のバランスを考えてラビットフードも与えるべきです。フードの条件は低カルシウムであること(ウサギは他の動物と異なりカルシウム過剰の害が多い)、繊維が多いこと、ソフトタイプで小粒であることなどで、量は体重

の1～1.5%を目安とします。ミックスフードは選り好みしますし、高カロリーなものが多く入っているので避けてください。麦や小麦原料のおやつは控えめにし、乾燥野菜はイモやカボチャや豆類は高カロリーすぎるのでやめた方がよく、また油で揚げたものは避けてください。

ケージの中にはトイレ、食器、乾草入れ、給水ボトルなどを配置します(写真H)。金網の床は足の裏をいためるので避けてください。1日1回以上お部屋に放して運動させましょう。ウサギは抱っこが嫌いですが、しつけなくてはいけないと思います。仰向け抱っこができると爪切りなどに便利です。爪切りのとき、血管が見にくかったらペンライトなどで照らしてみるとよいです。

ハムスター

次にハムスターです。ハムスターは眺めていても飽きませんし、もちろん触れ合うこともできる、というより彼らも人と触れ合うことが好きですから、なかなか楽しい動物です。一口にハムスターといってもさまざまな種があります。ゴールデン(写真I)、ジャンガリアン(写真J)、キャンベル、ロボロフスキー、チャイニーズなどですが、これらは品種ではなく、ひとつひとつが独立した種です。たとえばゴールデンハムスターが犬ならばジャンガリアンハムスターは狸くらいに遠縁な動物だということです。もちろん雑種はできません。

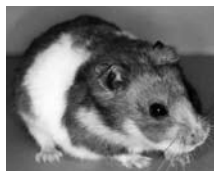
ハムスター類に共通した特徴として頬袋があげられます(写真K)。頬袋に食べ物や巣材を詰めて巣へ運びます。切歯は伸び続ける歯ですが、臼歯は伸びません。食性は草食に近い雑食性です。ハムスターは夜行性動物です。野生では冬眠をしますが、飼養下では冬眠はさせない方がよいです。ゴールデンは必ず単独飼養とし、1頭に1つのケージが必要です。ジャンガリアンは相性のよい同士は同居できます。

ハムスターケージには水槽型と金網型とがあるのですが、水槽型は蒸れやすく、金網型は事故が多いというそれぞれの欠点があります。回し車は隙間のあるものは事故が多いので、ぜひ隙間のないタイプを用意してあげてください。巣箱を入れますが、これは鳥の場合とは違い、必ずしも繁殖用ではなく、寝床としても使いますので常時入れておきます(写真L)。巣箱は管理しやすいという理由から屋根が外せるものを選ぶべきです。

食事はハムスターフードまたはフィンチ用雑穀類を主食とし、ナツ



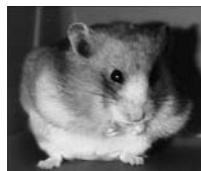
講演「小動物の適正飼養管理」を行う齊藤久美子氏



I. ゴールデンハムスター



J. ジャンガリアンハムスター



K. 頬袋



L. 巣箱



M. ハムスターとの接し方



ツ類、野菜、果物、干し草を副食として与えます。ほかに肉、魚、卵、チーズなどの動物性タンパクも与えてよいのですが、えてして与え過ぎになりがちですし、ハムスターフードには動物性タンパクも含まれているので、あえて与えなくてもよいと思います。ハムスターは肥満しやすいのでひまわりの種の与え過ぎなどには注意しましょう。ハムスターを抱き上げる時には必ずすくうように持ち上げてください。(写真M) 背中を上からつかみますととても怖がります。すくいあげたら上から手で蓋をすると落ち着きます。

モルモット

次はモルモットです。モルモットは大変かわいいですが、ものすごくうるさくて、とてもよく汚します。種類は多く、イングリッシュ(写真N)、アビシニアン(写真O)、スキニー(写真P)、テディー(写真Q)、クレストッド(写真R)、ベルビアン(写真S)、シェルティー(写真T)、コロネット(写真U)、テクセル(写真V)などがあります。モルモットはもともと声でコミュニケーションをとる動物なので、人に対してもよく鳴き声をあげます。

ケージは、床が金網の場合には足の裏をいためる(ソアホック)ことがあるので、足休めの柔らかい板を用意しておくべきです。ハムスターやウサギはトイレを容易に覚えますが、モルモットにはトイレを覚える個体がめったにいません。これは頭が良い悪いという問題ではなく、もともとの習性の問題なので、モルモットにトイレを無理強いするのはかわいそうです。モルモットは1頭でも飼えますし、複数の同居もできます。1頭飼いの利点は、排便量、排尿量、食べた量が把握できること、けんか傷ができないこと、衛生管理が容易なことなどで、複数飼いの利点は、運動量が多くなり肥満になりにくいこと、寒さに強いことなどです。

モルモットの食事はモルモット専用のフードと干し草(チモシーなど)を中心にしてください。野菜は控えめに与えます。肥満しやすいので注意が必要です。モルモットはビタミンCを毎日摂取する必要



N. イングリッシュ



O. アビシニアン



P. スキニー



Q. テディー



R. クレストッド



S. ベルビアン



T. シェルティー



U. コロネット



V. テクセル

があります。これは人間と同様に体内でビタミンCを合成する酵素をもたないためです。したがってラビットフードなどでモルモットを養いますと必ずビタミンC欠乏症(壊血病)になりますから気をつけてください。また、原因の如何にかかわらず食欲が低下した場合にはビタミンCの摂取量も不足しますので、オレンジをしぼったものを与えるなどの配慮が必要です。



討論での齊藤久美子氏

フェレット

最後にフェレットです。フェレットは活気があってゆかいな動物です。犬が食肉目イヌ科、猫が食肉目ネコ科であるのに対し、フェレットは食肉目イタチ科です。フェレットは肉食動物です。

肛門腺を除去し、不妊・去勢手術を施されたものが一般に販売されています。これは主に体臭を軽減するためですが、もうひとつ大切な目的は雌のエストロゲン性貧血を防ぐことにあります。発情したフェレットの雌が妊娠しないしていると高率に貧血を起こします。

フェレットにはさまざまなカラーバリエーションがあります。

フェレットはいろいろなものを飲み込んで腸閉塞を起こすことがよくありますので、日常的に注意をしていただきたいと思います。食事はフェレットフードが適しています。ケージにはハンモック、トイレ、給水ボトルなどをセッティングします。相性が悪くなければひとつのケージに複数が同居できます。好奇心旺盛でよく遊びます。フェレットは犬ジステンパーとフィラリア症にかかりやすく、またかかると命にかかわりますので、予防をしていただきたいと思います。



ここまで4つの動物の飼養管理についてざっとお話しましたが、各動物の特性をよく知ること、そしてそれに応じたつきあい方をすることが大切だと思います。また、“はじめに”でも書きましたが、この分野では正しい飼養法の普及がまだまだ不十分です。管理士としてのひとつの課題として取り組んでいただけたらと、切に思います。